

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・理念に基づく運営 1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の皆様の中で「やすらぎのある生活の場を目指します」との理念の元に運営をしている。サブタイトルとして、「お年寄りのこれからの生活を家族とスタッフと地域の皆様の力も借りながら支えていきます」「地域の皆様が認知症になっても困らない地域づくりの為に」とした。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念には、お年寄りの生活を支えていくという目的については、職員一丸となって取り組んでいる。	サブタイトルの二つ目の、「地域の皆様が…」の部分の取り組みが積極的には取り組めていないので、運営推進会議を足がかりに、委員の皆様と検討していきたい。
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切に理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	行事やGH内で完結できない事(お墓参りや美容室へ出かける、地域でのイベント)に参加し、施設外での生活の大切さを伝える用になっている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	運営推進会議の設置をきっかけに、ご近所の方とのおつき合いが活発になった。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の行事には参加してはいないが、ご近所づきあいはできていると思う。事業部として夏祭りや地域公開講座を行ない、取り組みをしている。	

シルバーハウス塚原

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>6 事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>検討中ではあるが、実行できていない。</p>		<p>地域包括と連携を図りながら進めていこうと考えている。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7 評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価は、自分の日常の仕事の振り返りとして取り組んでもらっている。外部評価での結果改善に繋がったこともある。</p>		<p>ただし、職員によっても理解の差があることが今回の自己評価で分かったので、職員間でばらつきが無いよう指導していきたい。</p>
<p>8 運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>推進会議は始めて間もないので、事業所を知って頂く事に力を入れてきたので、まだサービス向上に活かしている所まではいっていないと思う。</p>		<p>今後の推進会議のあり方として、ご意見をサービス向上の為に活かしていくという姿勢を持つようにしていく。</p>
<p>9 市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>保険者主催の会議なども開催されるようになり、保険者側からのサービス向上のための取り組みに対する意識の変化を感じる。</p>		<p>GH側からも積極的に意見を伝え、お互いにサービス向上の為に取り組んでいくようにしたい。</p>
<p>10 権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>法人全体で勉強会を開催したことがあるが、現在いるスタッフが全員理解できているというわけではない。</p>		<p>事業所単独での取り組みには困難さを感じるため、もう少し大きい単位での取り組みが必要かと思う。例えば法人や佐久圏域など。</p>
<p>11 虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>法人全体で勉強会を開催したことがあるが、現在いるスタッフが全員理解できているというわけではない。</p>		<p>事業所単独での取り組みには困難さを感じるため、もう少し大きい単位での取り組みが必要かと思う。例えば法人や佐久圏域など。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		

シルバーハウス塚原

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		<p>全GHが参加していないので、全事業所が参加してもらえるよう働きかけ、地域全体のGHのレベルアップと健全な運営を目指していけるように取組んでいきたい。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者とスタッフは話し合いを持ちながら、個人の目標を明確に設定し、その実績を客観的に評価できるよう努力している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	可能な限り入居前におためし利用をして頂きながらそのような努力をしている。		
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会を作り、受けとめる努力をしている	初めての相談の段階から十分に話を聞くように努めている。		
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護保険の知識の勉強をして、そのように対応できるよう努力しているし、できていると思う。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ショートステイの利用や、それが不可能な場合は日中のお試し利用をして頂き、本人にもなれて頂きながら、同時に入居判定もしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>周辺症状の対応ばかりでなく、その人と一緒に暮らすということに重点を置いて仕事ができるスタッフが増えてきたし、全体の意識も変わってきたと思う。</p>	
28	<p>本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族と協働で支えていく必要があるという事を理解してもらえよう、色々な場面で家族に協力を求めて一緒に支えられるようにしている。</p>	
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>家族関係を良好に保つために役立つような事(日頃の会話の中から発見できたお年寄りの思いなど)を家族に伝えたりして、お互いの気持ちの橋渡しをできるように心がけている。</p>	
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>本人との生活の中で分かったことで実現可能な事は可能な限り支援している。(今まで何年も通っていた美容室へ行く。その他外出の働きかけ)</p>	
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>相性などを考慮しながら、孤立せずかつ嫌な思いをしないよう関係に配慮している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>32</p> <p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	<p>入院先から次の入所施設へ入所するまでのフォローは必要な場合は責任を持って支援している。また、毎年年賀状を出している。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>			
<p>33</p> <p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>本人からの訴えが現実の事であれば叶うよう支援している(お墓参り、葬儀への参列を家族に代行してもらう、実家への外泊等)。訴えが困難な場合はなるべく家族と過ごせる時間を持てるよう支援している。</p>		
<p>34</p> <p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>入居時・入居後生活歴の把握に努めて、それをこれからの生活に役立てている。</p>		
<p>35</p> <p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>1日の中での変化、数日の間での変化など十分に把握できるように記録し、申し送りもしている。必要に応じて医療サイドにも情報提供している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
<p>36</p> <p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>毎日のショートカンファレンスなどで話し合われた事を実行して、意見やアイデアは反映されているが、介護計画にうまく反映できていない。</p>		<p>書類を作るよりまず実行してしまっている。チームとして統一したケアを提供する為にも、計画作成してからチームで取り組むように改善していきたい。</p>

シルバーハウス塚原

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>書類の作成が実行より遅くなってしまうことが多い。</p>		<p>同上</p>
38	<p>個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>ケアプランの評価の記録を兼ねて日々の記録を残している。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>				
39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>必要に応じて、受診、入退院の付き添い、個人の必要物品の買い物、入居前の体験利用、又はショートステイの受け入れなどで対応している。</p>		
<p>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</p>				
40	<p>地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>今まで特に協力を要請したことはないが、事業部の第三者委員会には地区の消防団の方も参加してくれているので、協力の要請体制は整っている。</p>		
41	<p>他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>GH入居継続が困難となった場合(経済的な理由、寝たきり等のADLの低下等)、他サービスが必要になった場合は、ケアマネ等と連携をとりながら、他サービスへ移行できるよう支援している。</p>		

シルバーハウス塚原

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
42	<p>地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>特にそのような取り組みをしたことはない。</p>		<p>必要な場合に対応できる様に、包括との連携を運営推進会議を通して図っていく。</p>
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居時に、日常の健康管理(主治医)と、入院時の病院の確認をし、本人、家族の意向に沿った医療が受けられるようにしている。</p>		
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>必要に応じて、専門医の受診をするなどしながら関係を築いている。また、信頼できる専門医とは勉強会の講師を依頼するなどして、更に関係を築く努力をしている。</p>		
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>訪看との契約により、週一回の健康チェックと24時間相談できる体制を整え、看護職員は入居者の状態も良く把握してくれている。</p>		
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>協力病院に入院の際は、主治医と直接または地域連携質が窓口となり情報交換ができるようになってきている。他医療機関でもそれぞれの窓口の方と連携はとっている。</p>		
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化、看取りについては重要事項説明の際にGHの方針を説明し、その時の家族の意向はある程度確認はしているが、変わることも多いので、本人に変化がある都度確認をして記録に残している。</p>		

シルバーハウス塚原

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		<p>個人差が大きい内容のように思う。個人個人で指導していく。</p>

シルバーハウス塚原

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>優先すべき事(受診や突発的な出来事等)が無ければ、現状の体制の中で可能な限りその人のペースで生活できるよう支援できている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>希望のある方は、地域のなじみの美容室などへ出かけられるよう支援している。なるべく地域の美容室へ出かけられる方が理想と考えている。</p>		
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>個人の持てる力に合わせて、毎日準備や片づけを一緒に行なっている。季節に合わせた食事も取り入れている。</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>管理はスタッフが行なって(必要に応じては主治医と相談しながら)、希望のあるときに楽しめるよう支援している。</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>減らすことは目的にはしていないが、個人個人の排泄パターンは毎日チェックし、把握もできており、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。</p>		

シルバーハウス塚原

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	優先すべき事(受診や突発的な出来事等)が無ければ、本人が好む入り方、時間が可能になるよう配慮している。		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	安心して休めることを生活のサイクルの一番大切な事と考え、その為に日中の活動、周りの環境、入眠前の団らんなどの時間を過ごせるように支援している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家の中での役割・楽しみ(家事全般、レク等)、家の外での楽しみ(ドライブやピクニック、コンサート等)へ可能な限り参加している。		
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在2名の方が個人でお金を持っていて、必要な時は自分の意思で使用できるように支援している。		
61 日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	いつも希望に添えるわけではないが、可能な限りその時の気分に応じられるように支援している。生活が単調にならないように、メリハリの生活が送れるよう配慮している。		

シルバーハウス塚原

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	一部の方にはお墓参りや外泊など実現しているが、訴えることのできない方への配慮に欠けていた。		こういった視点で、家族に投げかけていく必要性を感じる。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、事務所の電話を使用できるように支援している。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	共有スペース又は居室でゆっくり過ごせてもらえて、次も気兼ねなく訪問してもらえるよう配慮している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	取り組んでいる。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間、玄関に施錠する以外はしていない。		

シルバーハウス塚原

	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>	<p>玄関に鈴を付けるなどして、離設にいち早く築けるようにしている。所在確認をする習慣が身に付いている。</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>	<p>裁縫道具など、希望に応じて利用できるようにしている。入居者さんの手の届かないところで保管すべき物はして、数量の管理なども確実にこなしている。</p>		
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>救命講習への参加や、ひやりはつとを活用することで事故防止、再発防止に取り組んでいる。</p>		
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>不定期ではあるが、法人内の勉強会などに参加できるし、口頭での確認は必要に応じて随時行っている。(手順・連絡ルートの確認)</p>		
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>避難訓練を定期的に行ない、運営推進会議を通して、委員さんとも避難経路や方法の確認もしている。</p>		
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>特に認知症の重度化に伴う危険(転倒、離設)は口頭で何度も説明をし、理解して頂けるよう努めている。施錠、身体拘束は行っていない。</p>		

シルバーハウス塚原

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>毎朝バイタルチェックを行ない、早急に異変に気づけるようにしている。また、速やかに訪看に相談できる体制も整えている。</p>	
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>全てを把握することは難しいが、特に変更のあった薬などについては、随時口頭で説明を繰り返している。</p>	
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>	<p>便秘が不穏に直結すると考えており、排便チェックを欠かさないようにチェック表を利用している。排便チェック表で確認の上、飲食物や体操などの工夫もしている。</p>	
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行えるよう支援している。また、義歯洗浄剤による洗浄も週に一度行なっている。</p>	
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>毎食、食事量と必要に応じて水分量のチェックを行なっている。また栄養バランス等が良好でない時は特に好みの物が摂取できるよう配慮している。</p>	

シルバーハウス塚原

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	法人内で感染対策マニュアルが作成されており、必要に応じて、感染対策委員会から指示がもらえ実行できる体制を整えている。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	献立をたてる際に賞味期限のチェックをする。調理器具は使用前に熱湯消毒、毎晩まな板の漂白、調理前の手洗いなどを、管理栄養士指導のもと行なっている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	日中施錠をしない、玄関前に花を飾る等して、入りやすい環境にしている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	よしやすだれを使用したりして光の調整を行なっている。また、所々に花を飾ったりして、季節感を感じられ、生活するのに違和感の無い雰囲気作り(手作りの物を使用する)を心がけている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者の相性やADL等に応じて、配置の工夫や座る場所の配慮をしている。		

シルバーハウス塚原

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ゆっくりくつろげるようにイスを置いたり、私物の持ち込みを依頼して、家族と一緒に居室内の空間を考えている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気や温度調整はしっかりと行なわれている。また、外部の方に臭いなどについては確認しているが不快な臭いは感じないとの意見を頂くことが多い。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下の両側に手すりがあり、浴室にも手すりやシャワーチェアなども配置してある。テラスへの出口や玄関先の段差には段差解消の為に物を置いてある。居室内のレイアウトを変更することで、目の行き届きにくい居室内での転倒も減らすことができた。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	場所が分かりやすいように、大きな張り紙をしたり、各居室の表札の工夫をしている。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	テラスで、犬と遊んだり、お茶を飲めたりできるように配慮している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に つけること)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

シルバーハウス塚原

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所に をつけること)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている
		少しずつ増えている
		あまり増えていない
		全くいない
98	職員は、生き活きと働いている	ほぼ全ての職員が
		職員の2/3くらいが
		職員の1/3くらいが
		ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が
		利用者の2/3くらいが
		利用者の1/3くらいが
		ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が
		家族等の2/3くらいが
		家族等の1/3くらいが
		ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

* 佐久圏域内のGHと協働して組織を作り、費用をかけずにお互いに学べる場作りと、GH間の情報交換の場を作って活動中。お互いのGHを訪問仕合、研修をしたり、独自で勉強会を開催して、横のつながりを持てるようにしている。また、運営推進会議を設置したことで、ご近所の方や行政とのつながりも持てるようになってきている。